使用説明書

MINOLTA

お買い上げありがとうございます。

ミノルタα-303siは、一眼レフが初めての方にも気軽に写真の楽しさを味わっていただけるように開発された、軽量・コンパクトでやさしいオートフォーカス一眼レフカメラです。

このカメラの機能を十分に活用していただくために、この使用説明書をご使用前にお読みください。またお読みになった後は、保証書、アフターサービスのご案内とともに大切に保管してください。

この使用説明書は1994年1月に作成されたものです。それ以降に発売されたアクセサリーとの組み合わせは、本書裏面に記載の当社サービスセンター、サービスステーションにお問い合わせください。

文中の 😊 はアドバイス、
😖 は注意事項です。

目次

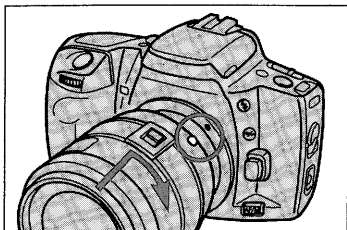
撮影早わかり

（詳しくは本文をご覧ください。）

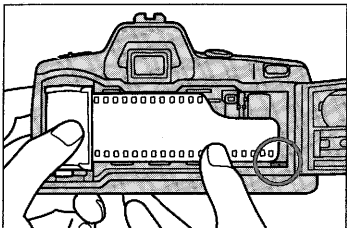
1

電池を入れます。

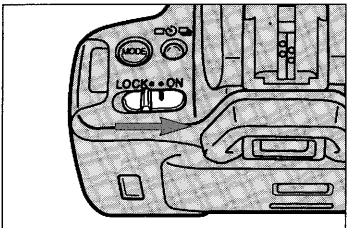
電池(2CR5)1個を、電池室ふたの表示にしたがって入れます。

2

レンズを取り付けます。

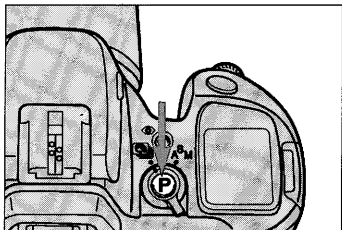
レンズとボディの2つの赤点を合わせてはめ込み、カチッとロックがかかるまで時計方向に回します。

3

フイルムを入れます。

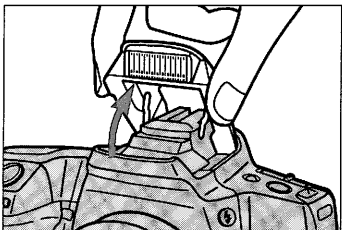
フイルムの先端を赤いマークに合わせ、裏ぶたを閉じます。

4

電源を入れます。

メインスイッチをONにします。

5

全自動にします。

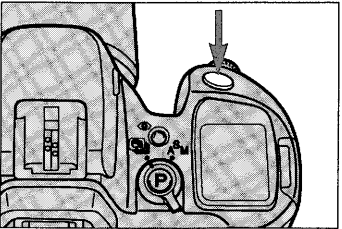
プログラムセットボタンを押します。

6

フラッシュを上げます。

7

カメラを構えます。

写したいものが[ ]に入るように、カメラを構えます。

8

撮影します。

シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

各部の名称

( )内は参照ページの番号です。
＊印の付いたところは、触らないように気を付けてください。

<ボディ>

ボタン(26、27)
(セルフタイマー・巻き上げ
モードボタン)

ファインダー＊(7、19)

赤目軽減ボタン(52)

ボディ表示部(6)

モードボタン

ストラップ
取り付け部(9)

ストラップ
取り付け部(9)

メイン
スイッチ(17)

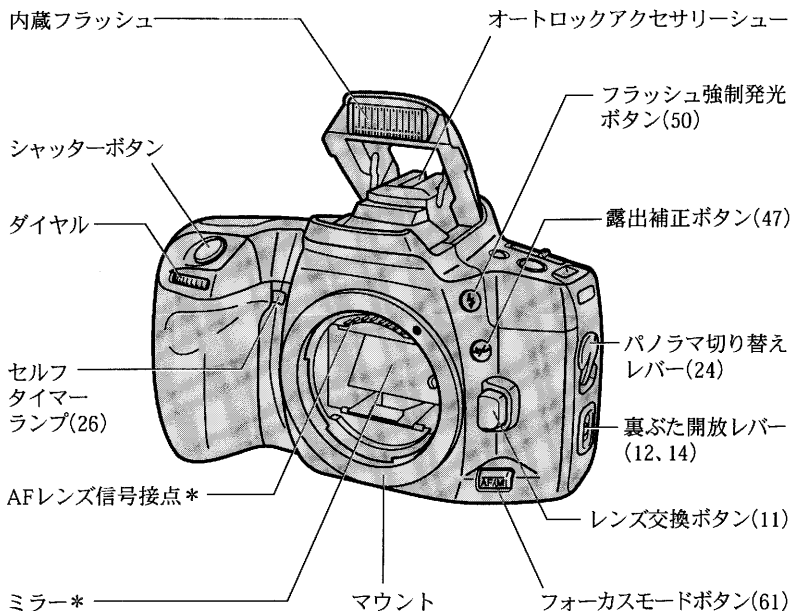
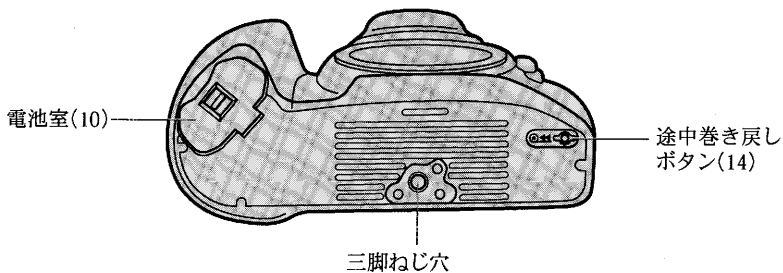
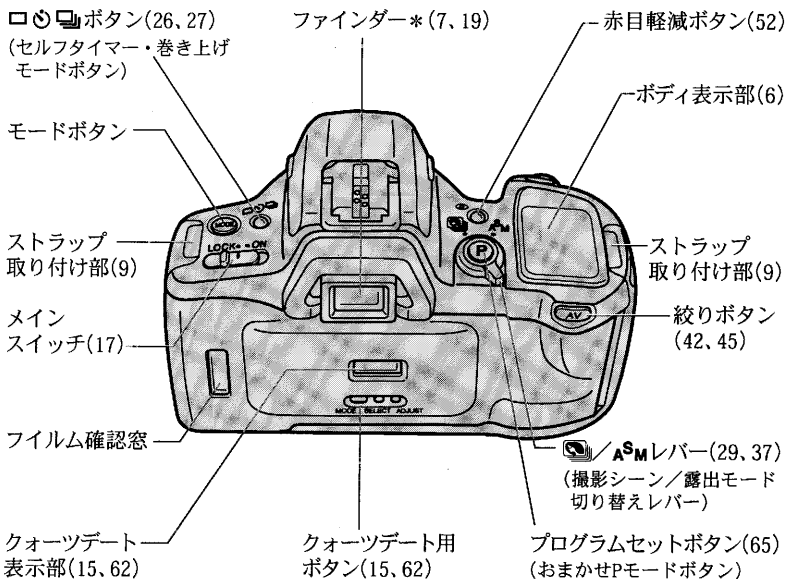
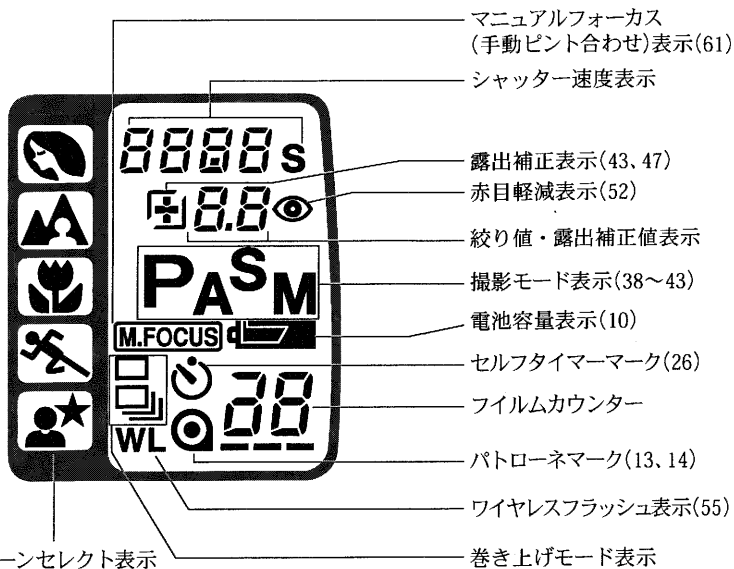
絞りボタン
(42、45)

フイルム確認窓

／ASMレバー(29、37)
(撮影シーン／露出モード
切り替えレバー)

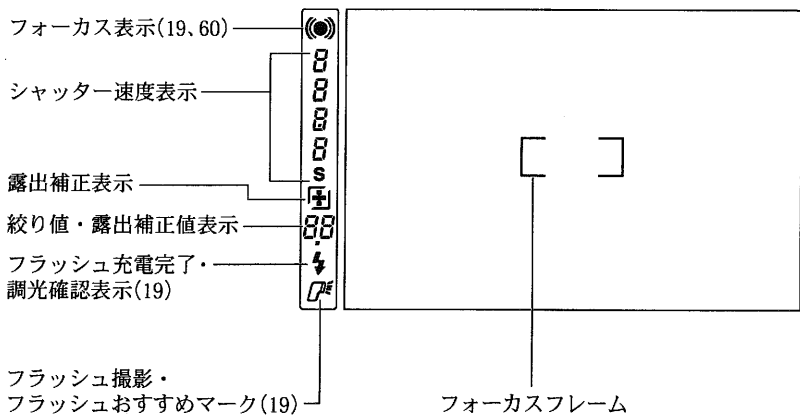
クォーツデート
表示部(15、62)

クォーツデート用
ボタン(15、62)

プログラムセットボタン(65)
(おまかせPモードボタン)

＜ボディ表示部＞

	ポートレート(30)
	記念撮影・風景(31)
	クローズアップ(32)
	スポーツ(33)
	夜景ポートレート・夜景(34)

	1コマ撮影マーク
	連続撮影マーク(27)

＜ファインダー表示部＞

フォーカス表示(19、60)
シャッター速度表示
露出補正表示
絞り値・露出補正値表示
フラッシュ充電完了・
調光確認表示(19)
フラッシュ撮影・
フラッシュおすすめマーク(19)
フォーカスフレーム

主な特長

小型・軽量です

- 本体重量は約395g(電池別)と軽量で、どこにでも気軽に持ち運べます。

操作が簡単です

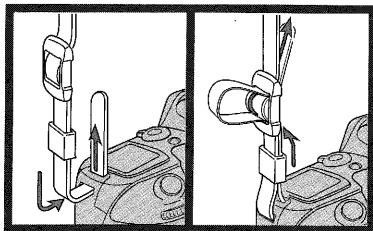
- プログラムセットボタン(おまかせPモードボタン)を押してシャッターを切るだけで、他の設定はすべてカメラが自動で行ないます。
- 動体予測フォーカス制御により、動いているものにもぴったりピントが合います。
- フイルムの途中でも、パノラマ撮影と標準撮影がレバー1つですぐに切り替えられます。パノラマ撮影時にはファインダーもパノラマに切り替わります。

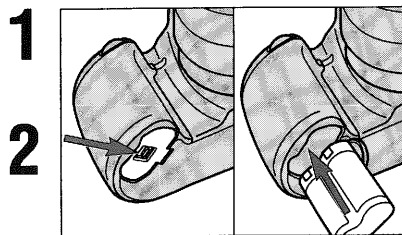
3つの使い方ができます

- プログラムセットボタンを押すと、おまかせPモードになります。
- レバーを側にすると、撮りたいシーンを絵表示で選ぶだけで、そのシーンに合った写真が撮れます。
- レバーをASM側にすると、絞り値やシャッター速度を自由に選べる一眼レフならではの操作が楽しめます。

撮影の準備をしましょう

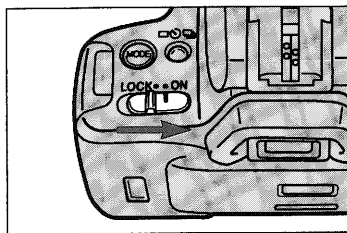
ここでは、撮影する前に準備しておくことを説明します。

付属のストラップを取り付けると、持ち運びに便利です。反対側も同様に取り付けてください。

電池の入れ方

6Vパックリチウム電池2CR5を1個使用します。

1 電池室開放レバーを矢印の方向へ押して、電池室のふたを開けます。

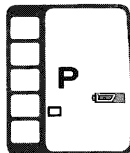
2 電池室ふたの表示にしたがって電池を入れ、ふたを閉じます。

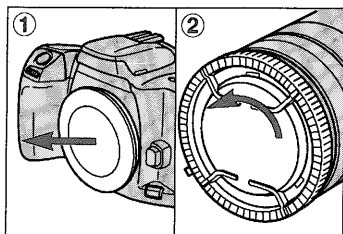
＜電池の容量＞

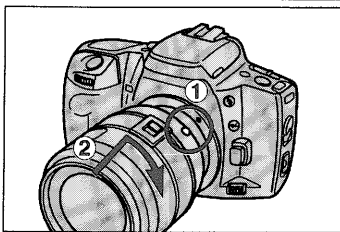
メインスイッチをLOCKからONにすると、自動的に電池容量のチェックが行なわれ、ボディ表示部にその結果を表示します。

点灯(4秒間)
電池容量は十分です。

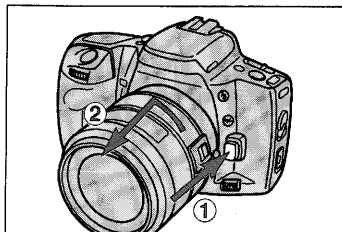
点灯(4秒間)
新しい電池を準備することをおすすめします(撮影はできます)。

点滅
電池を交換することをおすすめします(撮影はできます)。

のみ点滅(他の表示すべて消灯)
シャッターは切れません(撮影できません)。電池を交換してください。

レンズの取り付け方／取り外し方

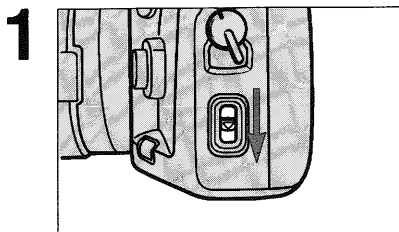
取り付け方

ボディキャップ①、レンズの後ろキャップ②を外します。

2

レンズとカメラの2つの赤い点①を合わせてはめ込み、カチッと音がするまで矢印方向に回します②。

取り外し方

メインスイッチをLOCKにし、レンズ交換ボタンを押したまま①、レンズを図の方向に止まるまで回して取り外します②。

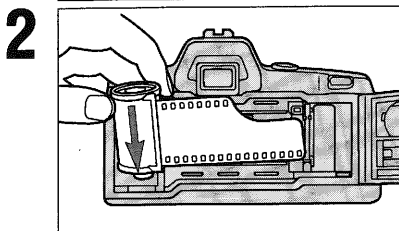
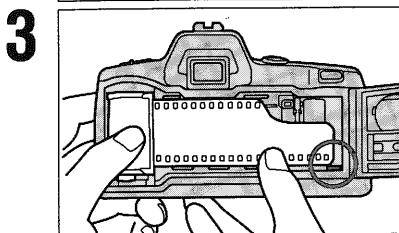
- 取り外した後は、キャップを付けて保管してください。

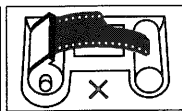
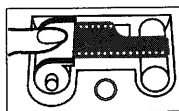
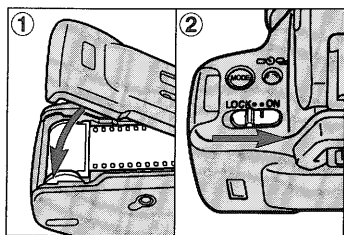
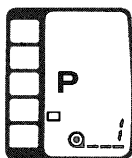
フイルムの入れ方

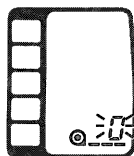
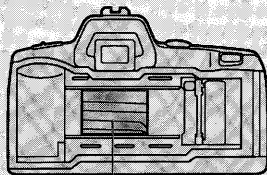
1

裏ぶた開放レバーを押し下げて裏ぶたを開けます。

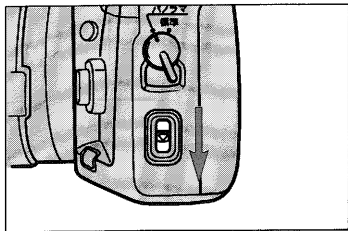
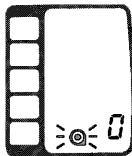
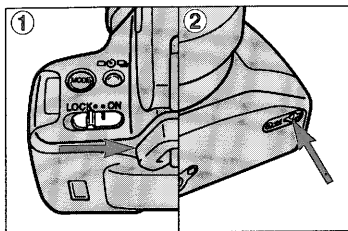
2

フイルムを図のように入れます。

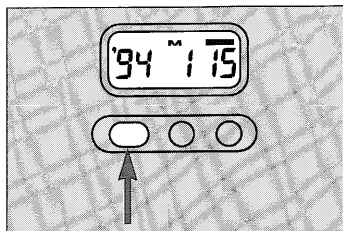
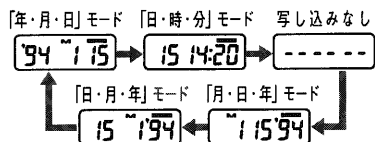
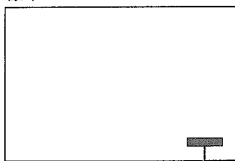
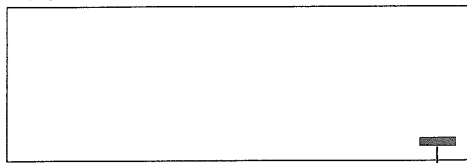
3

フイルムの先端を赤いマークの範囲内に合わせます

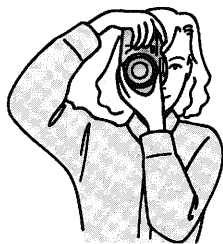
●フイルムが浮き上がらないようにパトローネ(フイルム容器)を押さえてください。

4

裏ぶたを閉じ①、メインスイッチをONにします②。

- フイルムが自動的に巻き上げられ、フイルムカウンターに“1”が表示されます。

- フイルムが正しく送られていない場合、フイルムカウンターは0のまま点滅します。このようなときは、もう一度フイルムを入れ直してください。

- シャッター幕は、非常に薄く精巧に作られています。手やフイルムの先が絶対に触れないように注意してください。
- フイルムの出し入れは、直射日光を避けて行なってください。
- ポラロイドインスタントリバーサルフイルム、赤外線フイルムは使用できません。
- フラッシュ撮影時はフイルム感度ISO25～1000のフイルムをお使いください。ISO1000より高感度のフイルムでフラッシュ撮影すると、適正露出が得られないことがあります。

フイルムの出し方

フイルムの最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

フイルムが終了すると自動的に巻き戻しが始まります。フイルムカウンターが“0”になり、⊙ が点滅したら、裏ぶたを開けて、フイルムを取り出します。

<フイルムを最後のコマまで撮影せずに途中で取り出したいとき>

メインスイッチをONにして①、ボディ底面の途中巻き戻しボタンをコインで押します②。

日付・時間を写し込むには

撮影時の日付や時間を写し込むことができます。このカメラには2019年までの日付が記憶されています。

モードボタンを押して、写し込みたい表示を選びます。

●写し込み位置に明るい色(空や白い壁)があると、写し込み文字が読みにくくなることがあります。

カメラの構え方

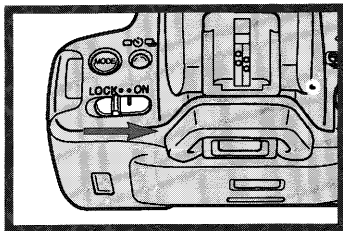
カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

- 片目をカメラのファインダーにぴったりつけます。
- 脇をしめます。
- 左手でレンズの下側を持って支えます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。
- 暗い場所でフラッシュなしで撮影する場合(シャッター速度が遅くなる)や、望遠レンズを使う場合は、手ぶれが起こりやすくなります(手ぶれしやすいときには、ファインダー内のシャッター速度表示が点滅してお知らせします)。このような場合は三脚を使って撮影してください。

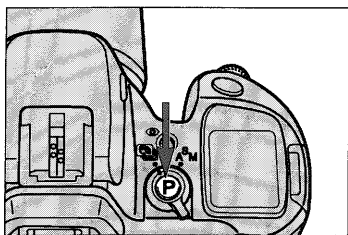
【入門編】

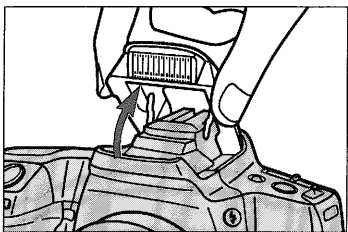
撮影しましょう

ここでは、いますぐ簡単に撮影が楽しめる、もっとも基本的な撮影方法について説明します。

撮影の前に、メインスイッチをONにします。

● 撮影が終わったら、メインスイッチをLOCKにしてください。

おまかせPモードで撮影しましょう

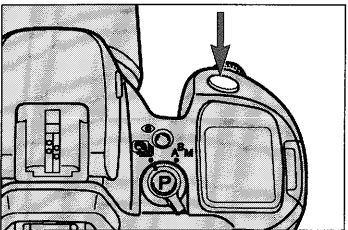
撮影の前に、メインスイッチをONにしてください。

1 プログラムセットボタンを押します。

●このボタンを押すと、カメラは全自動の状態になります。

2 フラッシュを上げます。

●フラッシュが必要なときは自動的に発光します。

3

ピントを合わせたいものが[ ]に入るようにカメラを構えます。

4

シャッターボタンを押し込んで撮影します。

<フラッシュ撮影について>

フラッシュを上げると、必要なときにはフラッシュが自動的に発光します。

フラッシュが発光するときは

1. シャッターボタンを半押し＊すると、ファインダー内のが点灯します①。

●点灯しないときは発光しません。

2. そのままが点灯する②(＝フラッシュの充電が完了する)のを待ちます。

3. が点灯したら、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

●撮影後、が点滅するのを確認してください。点滅しない場合は、フラッシュ光が被写体に届いていません。届く距離を確認してください(P.49参照)。

＊シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。この使用説明書では、ここまで押すことを半押しと呼んでいます。

<ファインダー表示部の見方>

❶ フォーカス表示(P.60参照)

(●) または●点灯：ピントが合っています。撮影できます。

● 点滅：ピントが合いません。シャッターは切れません。

❷ シャッター速度表示

点滅したとき：手ぶれしやすくなります(P.67参照)。

❸ 絞り値表示

❹ フラッシュ充電完了・調光確認表示

点灯：フラッシュの充電が完了しています。

撮影後、点滅：フラッシュ光が被写体に届きました。

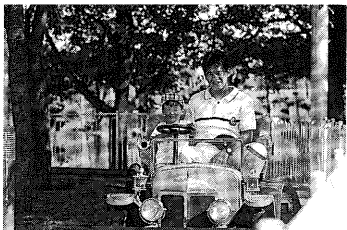
❺ フラッシュ撮影・フラッシュおすすめマーク

点灯：撮影時にフラッシュが発光します。

点滅：フラッシュの使用をおすすめします(P.67参照)。

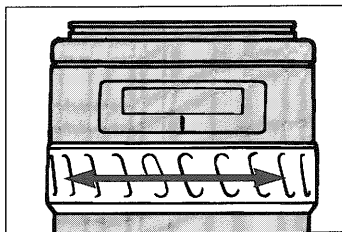
写す大きさを変えてみましょう

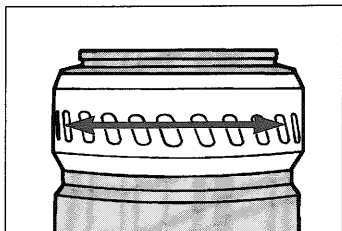
主題をどう表現したいかによって、写す大きさを変えてみましょう。

①
②
例えば、子供の豊かな表情を写したい場合は、周りの景色を入れて写すよりも、写真①のように顔の表情が十分にわかる大きさで写したほうが、子供の感情が伝わってきます。
逆に、記念撮影では、「どこにいるのか」「何に乗っているのか」などの周りの状況がわかるように写します。写真①のように子供の表情だけを写すのでなく、②のように遊園地に来たという情景も含めて写します。このように「表現したいもの」によって写す大きさを変えてみましょう。

大きさを変えるには次の2つの方法があります。
- 被写体に近づいたり、被写体から遠ざかったりする。
- レンズの焦点距離を変える。

焦点距離は、20mm、80mmなどと表され、この距離が長くなるほど、被写体は大きく写ります。ズームレンズでは、この距離をそのレンズの範囲内で自由に変えて、被写体を大きくしたり小さくしたりすることができます。これをズーミングといいます。

ズームレンズで写す大きさを変える(ズーミング)

<AFズームレンズの場合>

被写体が希望の大きさになるようにズームリングを回します。

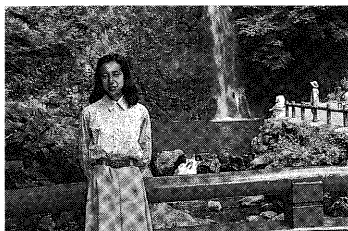
<AFズームXiレンズ、AFパワーズームレンズの場合>

被写体が希望の大きさになるようにズームリングを回します。希望の大きさになれば、すばやくズームリングを元に戻すか、またはリングから指を離します。

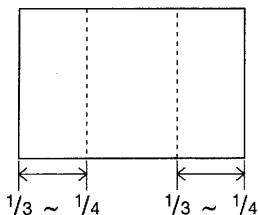
- ズームリングを小さく回すとゆっくり、大きく回すと速くズーミングします。

- AFズームXiレンズをご使用の場合、レンズのAZ／MZスイッチはAZに切り替えてください。MZ位置ではパワーズームが作動しません。

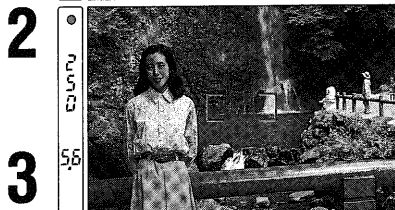
構図を変えてみましょう

①

②

写真全体のバランスを考えてみましょう。たとえば写真①のように、人と滝の両方を正面から写すことができないとき、人を画面中央に配置するとバランスの悪い写真になってしまいます。このような場合は、人と滝をバランス良く配置する工夫が必要です。

写真②は、人と滝を画面を横に1/3に分割する位置に配置し、バランスを良くしたものです。このように、バランスを良くするために被写体を画面中央からずらす場合は、図のように画面の端から1/3～1/4のところに配置するのが目安です。

被写体が中央にないときのピント合わせ（フォーカスロック）

前ページの写真②のようにピントを合わせたいものが[ ]に入らないときに、そのまま撮影すると、[ ]と重なっている背景にピントが合って人物がぼけた写真になってしまいます。このようにピントを合わせたいものが[ ]に入らないときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）してください。

1 ピントを合わせたいものに[ ]を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

2 半押ししたまま、ファインダー内の一番上の表示（フォーカス表示）が((●))から●に変わるのを確認します。

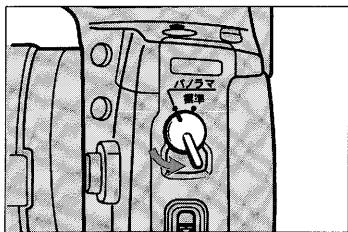
3 そのまま撮りたい構図にして撮影します。

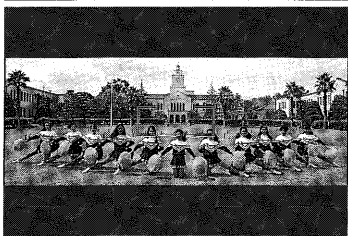
● ●が点灯しないとき（被写体が動いているときなど）は、ピントを固定することはできません。

● AFズームXiレンズの場合、ズームリングを手前に引いてピントを固定することもできます。
● フォーカスホールドボタンの付いているレンズの場合、ボタンを押してピントを固定することもできます。

パノラマ写真を写してみましょう

撮影の途中でも、標準撮影とパノラマ撮影を切り替えることができます。

パノラマへの切り替え

1 パノラマ切り替えレバーをパノラマ側にします。

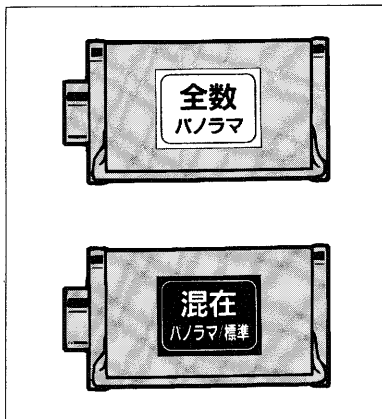
- ファインダーがパノラマに切り替わります。

2 構図を決めて撮影します。

- 標準撮影にもどすときは、パノラマ切り替えレバーを標準側にします。

- パノラマ切り替えレバーは、止まるまで(レバーの指標▬が きちんと●を指すまで)確実に操作してください。
- パノラマ撮影したフイルムは、図のように上下に露光されない部分があります。
- パノラマ撮影してもフイルムの撮影枚数は変わりません。

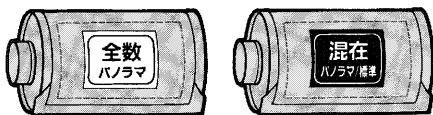
- パノラマ撮影するときは、画面の周辺に少し余裕を持たせてください。プリントされる範囲が、実際に撮影した画面よりも、やや狭くなることがあります。

- パノラマ写真の一般的なプリントサイズは89㎜×254㎜(標準)です。

<パノラマ撮影したフイルムを現像・プリントに出すときは>

付属のパノラマシールをフイルム(パトローネ)に貼ってから、パノラマ撮影したフイルムであることをお店に伝えて、出してください。
パノラマシールは2種類あり、すべてパノラマ撮影したフイルムには「パノラマ全数」を、途中で切り替えて撮影したフイルムには「パノラマ/標準混在」を貼ってください。

■シールを貼る位置

図の点線内に貼ってください。

正しい位置

悪い位置

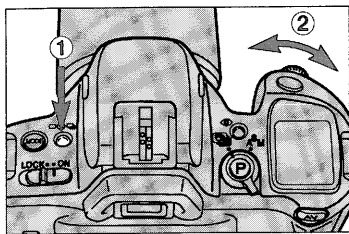
● バーコードの上やDXコードの上(銀色と黒色の組み合わさった部分)には貼らないでください。

● パノラマシールがなくなった場合は、当社サービスセンター、サービスステーション(裏表紙記載)にお問い合わせください。

セルフタイマー撮影 ⏲

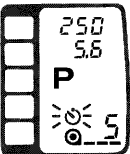
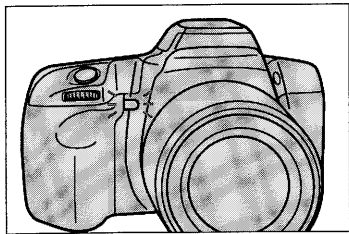
シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。

1

①
②

□ ⏲ ⧉ ボタンを押したまま① ダイヤルを回して②、ボディ表示部に ⏲ を点滅させます。

- ボタンから手を離すと、セルフタイマーが設定されます。

2

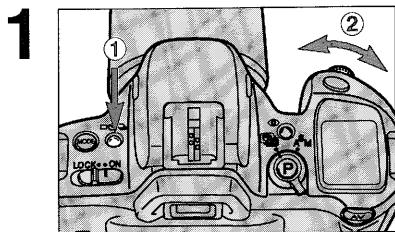
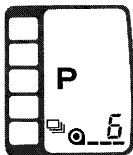
構図を決め、シャッターボタンを押し込みます。

- カメラ前面のセルフタイマーランプとボディ表示部の ⏲ が点滅し、約10秒後に撮影されます。

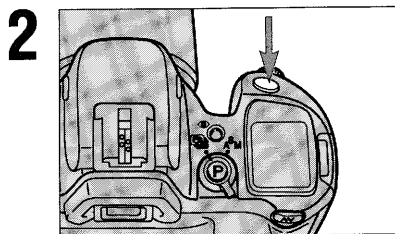
- 撮影後、セルフタイマーは解除されます。

- シャッターボタンを押す前にセルフタイマーを解除するには、**1**の操作で□（1コマ撮影）を選んでください。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、メインスイッチをLOCKにしてください。

連続撮影 ⧉

シャッターボタンを押している間、連続して撮影されます。

1

□ ⏱ ⧉ ボタンを押したまま①ダイヤルを回して②、ボディ表示部に ⧉ を点滅させます。

- ボタンから手を離すと、連続撮影が設定されます。

2

シャッターボタンを押し続けます。

- 押し続けている間、連続して撮影されます。

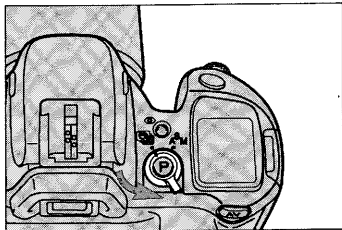
- 解除するときは、1の操作で□（1コマ撮影）を選んでください。

- AFズームXiレンズまたはAFパワーズーム使用時には、連続撮影中(シャッターボタンを押し込んでいる間)はパワーズームができません。

【初 級 編】

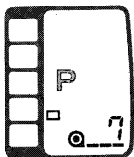
撮影シーンに合わせて撮ってみましょう

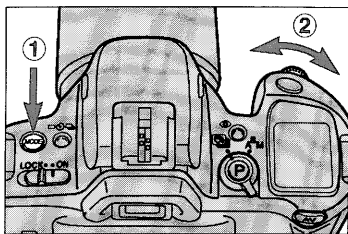
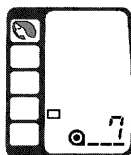
写真について知らなくても、簡単な操作で撮りたい場面にあった写真を撮ることができます。

この章に入る前に

／ASM レバーをの位置にしてください。

……ポートレート、スポーツシーンなど、撮影したい場面を5種類の中から絵表示で選ぶことができます。

ASM ……カメラの露出の設定を自分で変えることができます(P.36参照)。

●いずれの場合も、プログラムセットボタンを押すとカメラは全自動の状態(Pモード)に戻り、ボディ表示部にPが表示されます。

ポートレート

人物がくっきりと浮き立つように、背景が美しくぼけて写ります。

1 モードボタンを押したまま①ダイヤルを回して②、ボディ表示部に を点滅させます。

● ボタンから手を離すと、ポートレートモードになります。

2 シャッターボタンを押して撮影します。

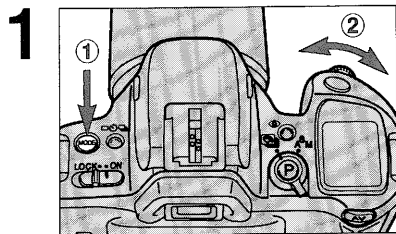
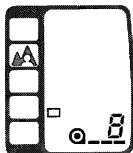
● フラッシュを上げていると、逆光等でフラッシュが必要な場合は自動的に発光します。ただし背景があまりぼけないことがあります。

● 背景をぼかすには、望遠レンズや明るい(レンズ名称のFの値の小さい)レンズのほうが効果があります。より効果を出すためには、次のレンズをおすすめします。

- ・AF100mm F2
- ・AFズーム24-85mm F3.5-4.5
- ・AFズームXi 28-105mm F3.5-4.5
- ・AFズーム35-105mm F3.5-4.5
- ・AFズーム70-210mm F3.5-4.5
- ・AFズーム70-210mm F4.5-5.6

記念撮影・風景

どこで撮影したかすぐ分かるように、手前の人物にも背景にもピントが合うように写ります。

1

モードボタンを押したまま①ダイヤルを回して②、ボディ表示部に を点滅させます。

● ボタンから手を離すと、記念撮影・風景モードになります。

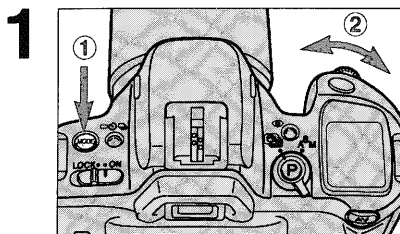
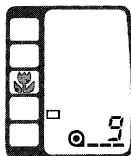
2 **シャッターボタンを押して撮影します。**

● フラッシュを上げていると自動発光しますが、背景までフラッシュ光が届かない場合は(P.49参照)フラッシュは使用しないでください。
逆光のときはフラッシュの使用をおすすめしますが、背景にははっきりとピントが合って写らないことがあります。
● 曇りの日などそれほど明るくないときは、手ぶれしやすいので、三脚の使用をおすすめします。

● 夜景をバックに記念撮影する場合は、夜景ポートレート・夜景モードをお使いください。
● 全体にピントを合わすには、広角レンズのほうが効果があります。より効果を出すためには、次のレンズをおすすめします。
・AFズーム24-50mm F4
・AF28mm F2/F2.8
・AF35mm F1.4/F2
・AF50mm F1.4/F1.7

クローズアップ 🌷

小さな草花や昆虫などを撮影するときに使います。

1

モードボタンを押したまま①ダイヤルを回して②、ボディ表示部に🌷を点滅させます。

- ボタンから手を離すと、クローズアップモードになります。

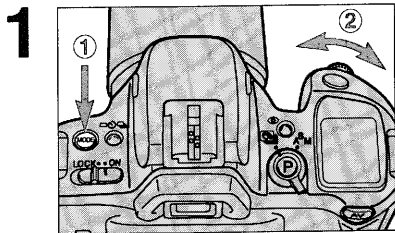
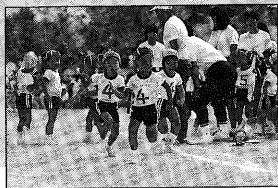
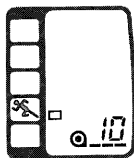
2 シャッターボタンを押して撮影します。

- フラッシュを上げて撮影すると、必要時には自動的に発光しますが、発光時にはピントが合って写る範囲が狭くなることがあります。また、内蔵フラッシュ使用時には、写真の下部に影ができるため、1m以内では撮影できません。1m以内のフラッシュ撮影には、別売りのマクロフラッシュ1200AF-Nを使用してください。またクローズアップディフューザーを使用すると、写真下部の影をやわらげることができます。

- クローズアップ撮影では手ぶれが目立ちやすくなるので、三脚のご使用をおすすめします。
- より大きく撮影するには、次のレンズをおすすめします。
  - ・AFマクロ50mm F2.8
  - ・AFマクロ100mm F2.8

スポーツ

早く動いているものでもぶれないように写ります。

1

モードボタンを押したまま①ダイヤルを回して②、ボディ表示部に を点滅させます。

● ボタンから手を離すと、スポーツモードになります。

2 シャッターボタンを押して撮影します。

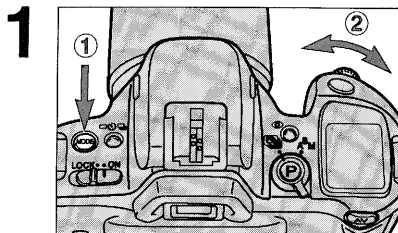
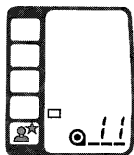
● フラッシュを上げて撮影すると必要時には自動的に発光しますが、フラッシュ光が届かない場合(フラッシュ光の届く範囲についてはP.49参照)は、フラッシュは使用しないでください。屋内での撮影には、三脚の使用をおすすめします。

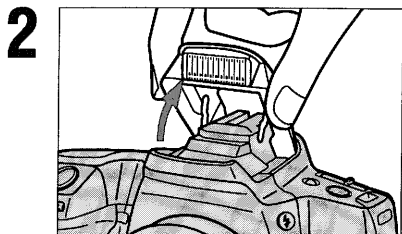
● 高感度フイルム(ISO400など)の使用をおすすめします。
● スポーツ撮影には、次のレンズをおすすめします。望遠レンズ使用時には手ぶれしやすいので、三脚の使用をおすすめします。

・AFズーム70-210mm F3.5-4.5
・AFズーム70-210mm F4.5-5.6
・AFアポテレズーム100-300mm F4.5-5.6
・AFズームXi100-300mm F4.5-5.6

夜景ポートレート・夜景

夜景を背景にして記念撮影する場合、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写し出されますが、フラッシュ光の届かない背景は黒くつぶれてしまいます。そのような場合にこのモードを使うと、人物も背景もきれいに撮ることができます。

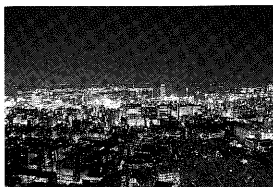
1

モードボタンを押したまま①ダイヤルを回して②、ボディ表示部に を点滅させます。

● ボタンから手を離すと、夜景ポートレートモードになります。

2

フラッシュを上げます。

3

シャッターボタンを押して撮影します。

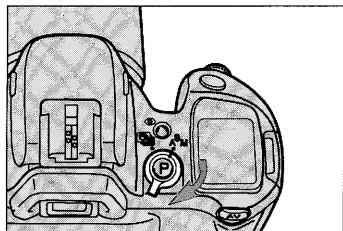
●手ぶれしやすいので、三脚を使用してください。また、撮影される人物が動くと写真もぶれるので、動かないように注意してください。
●明かりの少ない全体的に暗い夜景だと、写真がうまく仕上がらないことがあります。

夜景のみで人物が入らない場合は、フラッシュを下げて撮影します(夜景モード)。

- 手ぶれしやすいので、三脚を使用してください。
- ピントが合いにくいときは、明るい部分にピントを合わせてフォーカスロックをしてください(P.23参照)。

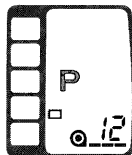
【中級編】

写真の描写を変えてみましょう

絞り値やシャッター速度などのカメラの各種設定を直接コントロールして、背景の描写や動いているものの描写などを撮影者の思い通りに設定することができます。

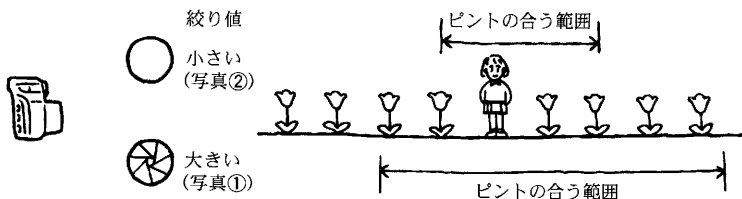
この章に入る前に

[icon]／ASM レバーを ASM の位置にしてください。

この位置では、カメラの絞り値やシャッター速度の片方または両方を撮影者が自由に選ぶことができます。

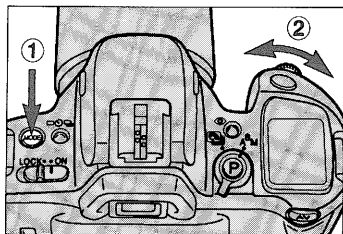
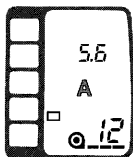
● プログラムセットボタンを押すと、カメラは全自動の状態(Pモード)に戻り、ボディ表示部にPが表示されます。

背景の描写を変えてみましょう(Aモード撮影)

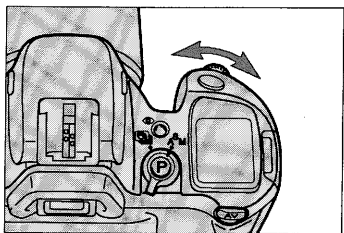
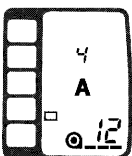
① F16

② F1.4

写真①は入園式の写真です。背景までピントが合っているので、入園式だというのがよくわかります。写真②は子供のスナップ写真です。背景が適度にぼけており、子供の表情がより浮き立って強調されています。
このような背景の描写は、カメラの絞りで調節できます。絞りとは光が通るレンズの穴のことで、①のように絞り値が大きい(F16、22など)ほど背景までピントが合い(ピントの合う範囲が広くなり)、②のように小さい(F3.5、4など)ほど背景がぼけます(ピントの合う範囲は狭くなります)。

●広角レンズほど背景までピントが合い、望遠レンズほど背景がぼけやすくなります。
●被写体までの距離が近いほど、背景がぼけやすくなります。

Aモードで撮影します

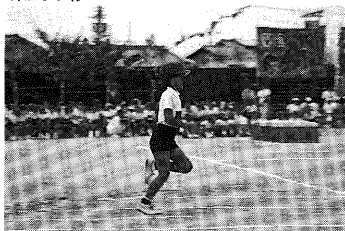
1

モードボタンを押したまま①ダイヤルを回して②、ボディ表示部にAを点滅させます。

●ボタンから手を離すと、Aモードになります。

2

ダイヤルを回して希望の絞り値を選びます。

●絞り値の範囲は使用レンズによって決まります。

●ファインダーをのぞいたときは、ピント位置の確認のため、常に背景がぼけた状態になっています。絞り値を大きくしても背景までピントが合っているようには見えませんが、フイルム上およびプリントでは背景までピントが合って写ります。
●シャッター速度が2000または30sで点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーまたはアンダーの写真になります。点滅しなくなるまで絞り値を変更してください

●Aモードでのフラッシュ撮影については、51ページをご覧ください。

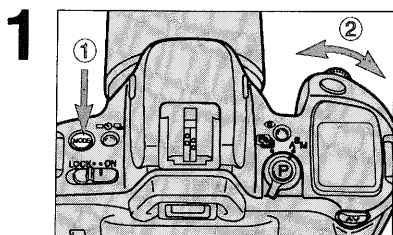
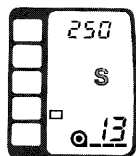
動いているものの描写を変えてみましょう
(Sモード撮影)

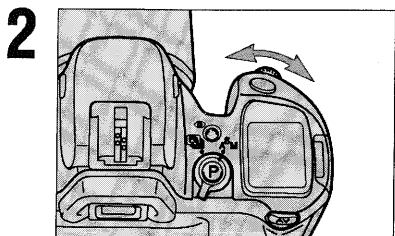
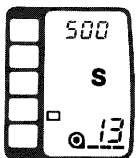
① 1/250秒

② 1/8秒

写真①は、走っている子供のようすがよくわかります。写真②では、走っている子供の速さが強調されています。
このような動いているものの描写は、カメラのシャッター速度で調節できます。シャッター速度とは光がフイルムに当たっている時間のことで、①のようにシャッター速度が速い(1/500、1/1000など)ほど動くものは止まって写り、②のように遅い(1/15、1/30など)ほど流れるように写ります。

※写真②は流し撮りといって、カメラを走っている子供に合わせて動かしたものです。
この場面を流し撮りでなく普通に撮ると、背景は流れずに子供が流れて写ります。

Sモードで撮影します

1

モードボタンを押したまま①ダイヤルを回して②、ボディ表示部にSを点滅させます。

● ボタンから手を離すと、Sモードになります。

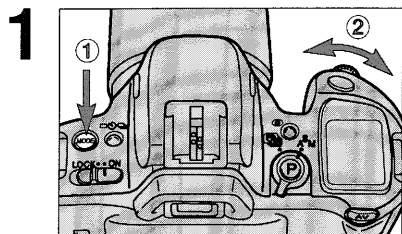
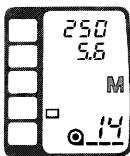
2

ダイヤルを回して希望のシャッター速度を選びます。

●選べるシャッター速度の範囲は30秒〜1/2000秒です。

●表示部の60、125といった数字は、1/60秒、1/125秒を表します。2 s、4 sなど"s"の文字が表れている場合は、2秒、4秒を表します。
●絞り値が点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーまたはアンダーの写真になります。点滅しなくなるまでシャッター速度を変更してください。

●Sモードでのフラッシュ撮影については、51ページをご覧ください。

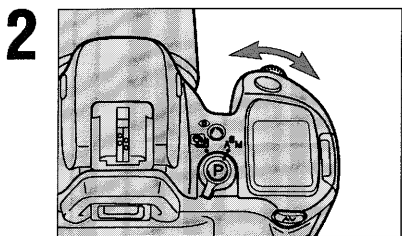
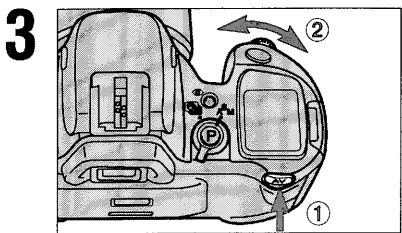
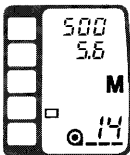
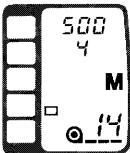
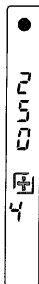
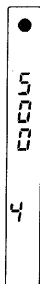
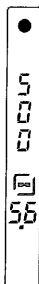
自由に露出を決めることができます（Mモード撮影）

Aモード、Sモードで説明した絞り値とシャッター速度を、自由に選ぶことができます。選んだ設定で露出オーバーまたはアンダーになる場合は、カメラがそれをお知らせします。

1

モードボタンを押したまま①ダイヤルを回して②、ボディ表示部にMを点滅させます。

● ボタンから手を離すと、Mモードになります。

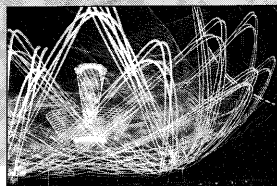
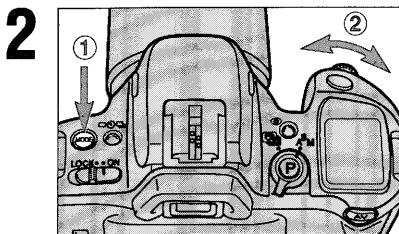
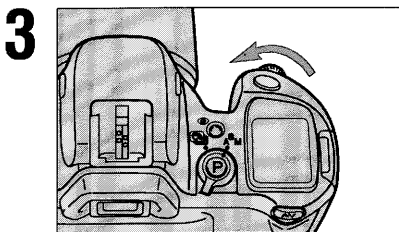
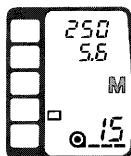
2

ダイヤルを回して希望のシャッター速度を選びます。

3

絞りボタンを押したまま①ダイヤルを回して②、希望の絞り値を選びます。

ファインダー内に⊞が表示されると露出オーバーの写真に、⊟が表示されるとアンダーの写真になります。どちらも表示されないときは適正露出(カメラが測光した値)になります。

※露出オーバー、アンダーについての説明は46ページをご覧ください。

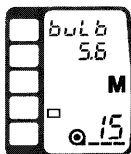
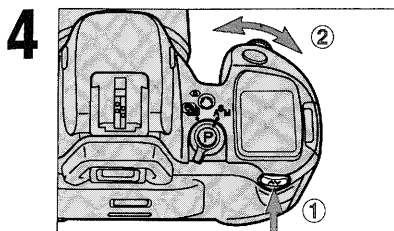
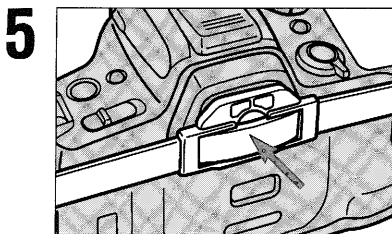
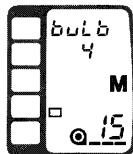
●Mモードでのフラッシュ撮影については、51ページをご覧ください。

長時間露光(バルブ撮影)

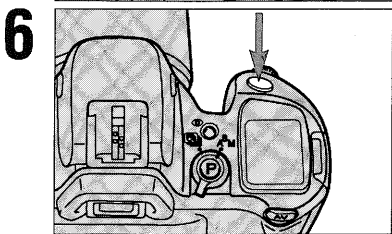
シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります。長時間の露光が必要なときに使用します。

1 カメラを三脚などに固定します。

2 モードボタンを押したまま①ダイヤルを回して②、M(マニュアル)モードにします。

3 ダイヤルを回して bulb を選びます。

4

絞りボタンを押したまま①ダイヤルを回して②、希望の絞り値を選びます。

5

構図を決めて、アイピースキャップを取り付けます。

● ファインダーから光が入るのを防ぐためです。

6

必要な時間シャッターボタンを押し続けます。

● シャッターボタンから指を離すと、シャッターが閉じ、撮影が終了します。

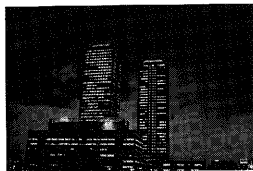
画面全体を明るく・暗くする（露出補正）

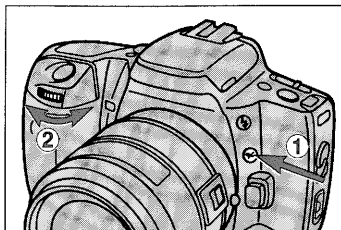
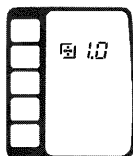
フイルムに当たる光の量を調節して、画面全体を明るめにしたり暗めにしたりすることができます。

フイルムに当たる光の量が多くなると、画面全体が明るくなって露出オーバーとなります。少なくなると、全体が暗くなって露出アンダーとなります。このカメラでは、意図的に露出オーバー、アンダーにする（露出補正する）ことができます。

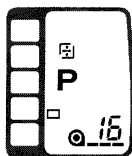
露出オーバー

適正露出

露出アンダー

- 露出オーバー、アンダーは、ネガフイルムよりもリバーサルフイルムの方がはっきりした効果が出ます。
- 撮ろうとしている場面が白っぽいときはオーバー側にすると白さが再現されやすく、黒っぽいときはアンダー側にすると黒さが再現されやすくなります。

1

露出補正ボタンを押したまま①ダイヤルを回して②、ボディ表示部に希望の数値を表示させます。

● ⊞は露出オーバー、⊟は露出アンダーを表します。数値が大きいほど露出補正量は多くなります。

● ±3段まで設定できます。

2 希望の数値になれば、露出補正ボタンから手を離します。

● ボディ表示部とファインダー表示部に⊞または⊟の表示が残り、露出補正されていることを表します（Mモード時のファインダー内の表示についてはP.43参照）。

● 露出補正は、／ASM レバーの位置にかかわらず設定できます。

フラッシュを使って
撮影しましょう

カメラの内蔵フラッシュを使って、撮影の幅を広げましょう。

フラッシュ光の届く範囲

フラッシュ光の届く範囲には限界があります。フラッシュ撮影をするときには、光の届く範囲内に写したいものを入れて撮影してください。

フラッシュ光の届く範囲は、絞り値とフイルム感度によって異なります。28-80mm F4-5.6のレンズとISO 100のフイルムを使って内蔵フラッシュで撮影する場合だと、28mm側で1.0-3.0m、80mm側で1.0-2.1m、ISO 400のフイルムだとそれぞれ1.0-6.0m、1.0-4.2mとなります。それ以外のレンズで撮影する場合は、以下の表を目安にしてください。

内蔵フラッシュによる撮影距離

絞り値 ＼ フイルム感度	ISO 100	ISO 400
F2.8	1.0-4.2m	1.0-8.4m
F4	1.0-3.0m	1.0-6.0m
F5.6	1.0-2.1m	1.0-4.2m

- 内蔵フラッシュを使って1m未満で撮影すると、写真の下部に影ができることがあります。
- 内蔵フラッシュ使用時は、使用できるレンズに制限があります。(P.53参照)

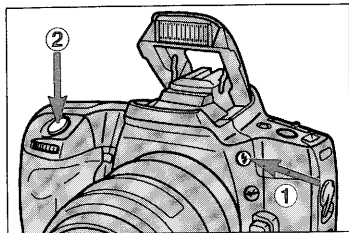
- プログラムフラッシュについては、フラッシュの使用説明書をご覧ください。

Pモードでのフラッシュ撮影

／ASMレバーの位置にかかわらず、Pモードでのフラッシュ撮影の方法は次の通りです。

フラッシュが上がっているとき

必要なときに自動的に発光します。

＜フラッシュを必ず発光させたいとき＞

フラッシュ強制発光ボタンを押したままシャッターボタンを押します。

●次のような場合は、フラッシュを発光させるとよりきれいな写真が撮れます。
・明るい屋外で、帽子などで顔に影ができている人物の撮影
・曇の日に、屋外での人物の撮影
・蛍光灯下の明るい室内での撮影

フラッシュが下がっているとき

フラッシュは発光しません。

●フラッシュ撮影が禁止されている美術館などでの撮影に使います。

A･S･Mモードでのフラッシュ撮影

フラッシュが上がっているときは必ず発光します。下がっていると発光しません。

Aモードフラッシュ撮影

フラッシュなしの撮影と同じで、希望の絞り値を選ぶことができます。シャッター速度は自動的に決まります。

Sモードフラッシュ撮影

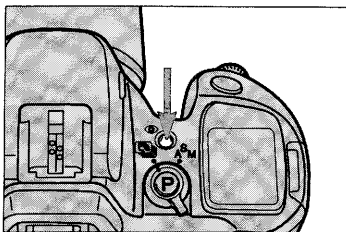
フラッシュなしの撮影と異なり、シャッター速度、絞り値とも自動的に決まります。（Pモードフラッシュ撮影と同じになります。）

Mモードフラッシュ撮影

フラッシュなしの撮影と同じで、希望の絞り値とシャッター速度を選ぶことができます。1/90秒より速いシャッター速度は選べません。

●A･Mモードでは、絞り値を大きくするほどフラッシュ光の届く範囲は狭くなります（P.49参照）。

眼が赤く写るのを軽減します（フラッシュプリ発光）

暗いところで人物を内蔵フラッシュで撮影すると、フラッシュ光が眼の中で反射して、眼が赤く写ることがあります。撮影の直前に小光量のフラッシュを何回か発光（プリ発光）させると、この現象を和らげることができます。

赤目軽減ボタンを押します。

- ボディ表示部に ◉ が表示され、本発光の前に数回プリ発光が行なわれます。
- もう一度赤目軽減ボタンを押すと、通常の（プリ発光のない）フラッシュ撮影に戻ります。

内蔵フラッシュ使用時のレンズについて

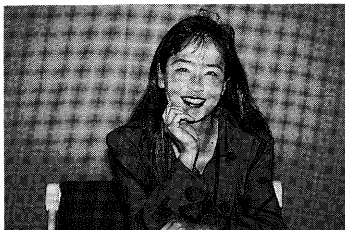
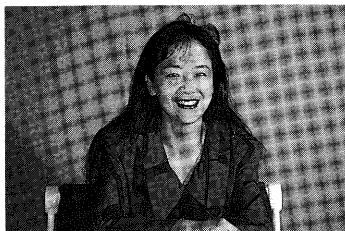
- 焦点距離28mm未満の広角レンズで内蔵フラッシュ撮影をすると、写真の周辺が暗くなることがあります。

- 内蔵フラッシュで撮影する場合は、フラッシュ光がレンズでさえぎられて写真の下部に影ができることがあります。以下のことに気を付けて撮影してください。
  - ・1m以上離れて撮影してください。
  - ・レンズフードは取り外してください。

- 下記のレンズ使用時は、フラッシュ光がレンズでさえぎられるため、内蔵フラッシュによる撮影はできません。
  - ・ハイスピードAFアポテレ300mm F2.8
  - ・AFアポテレ300mm F2.8
  - ・ハイスピードアポテレ600mm F4
  - ・AFアポテレ600mm F4

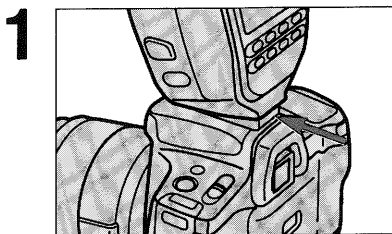
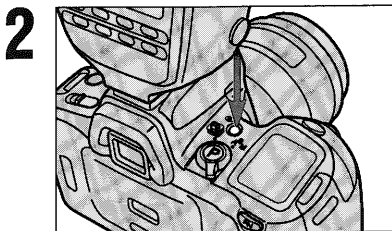
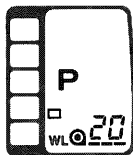
- 下記のレンズで内蔵フラッシュ撮影をするときは、広角側でフラッシュ光がレンズでさえぎられることがありますので、フラッシュ撮影には、別売りのプログラムフラッシュの使用をおすすめします。詳しくはサービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。
  - ・AFズーム28-70mm F2.8G
  - ・AFズーム28-85mm F3.5-4.5
  - ・AFズーム28-135mm F4-4.5
  - ・AFズームXi 35-200mm F4.5-5.6

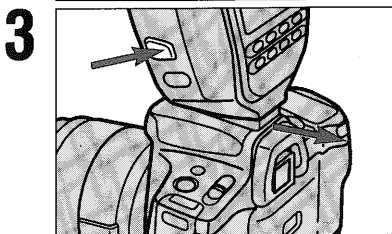
ワイヤレスフラッシュ撮影

別売りのプログラムフラッシュ5400HS、5400Xi、3500Xiのいずれかが必要です。

①
②
③
フラッシュをカメラの上に取り付けて撮影すると、写真①のように平面的な印象を受ける写真になることがあります。このようなとき、フラッシュをカメラから離して撮影すると、フラッシュの位置を工夫することで、陰影を付けて立体感を出すことができます(写真②)。このようなフラッシュをカメラから離した撮影を、オフカメラフラッシュ撮影と呼びます。
写真③はカメラの内蔵フラッシュと、オフカメラフラッシュの光量を1：2の割合で発光させたものです。明暗差が柔らかくなり、自然な陰影を付けることができます。このような2灯以上のフラッシュの光量に比をつけた撮影を、光量比制御撮影と呼びます。
従来、一眼レフカメラではこのオフカメラフラッシュ撮影をするときには、カメラとフラッシュをコードで接続する必要がありました。このカメラは、カメラとフラッシュの信号の伝達をコードではなく、フラッシュの光を利用して行なうことができます。このフラッシュ撮影をワイヤレスフラッシュ撮影と呼びます。もちろん露出はカメラが自動で適正露出になるよう制御します。

このカメラと組み合わせてワイヤレスフラッシュ撮影できるフラッシュは、5400HS、5400Xi、3500Xiの3機種です。

設定方法

フラッシュをONにし、カメラに取り付けます。

2

赤目軽減ボタン◉を押します。

● ボディ表示部に**WL**が表示されます。

3

フラッシュをカメラから取り外します。

撮影方法

このカメラは、内蔵フラッシュの発光を信号として5400HSや5400Xi、3500Xiを発光させます。信号が正しく受け取れるように以下のことに気を付けてください。

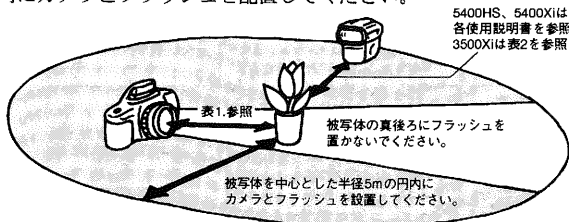
- 室内など、暗いところで撮影してください。
- 下記の範囲内にカメラとフラッシュを配置してください。

1 カメラ、フラッシュ、被写体を上図のように設置します。

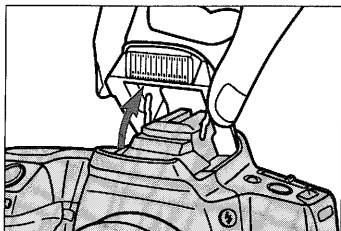
表1: ワイヤレスフラッシュ撮影時の被写体とカメラとの距離(単位メートル)

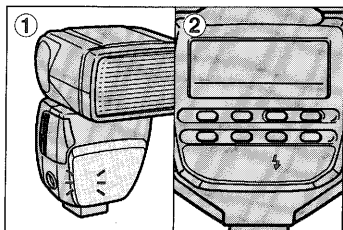
絞り値 ＼ フイルム感度	ISO 100	ISO 400
F2.8	1.4-5.0	2.8-5.0
F4	1.0-5.0	2.0-5.0
F5.6	1.0-5.0	1.4-5.0

- ワイヤレスフラッシュ撮影時の被写体とフラッシュとの距離について
  5400HS、5400Xiをご使用の場合は各フラッシュの使用説明書をご覧ください。
  3500Xiをご使用の場合は下の表を目安にしてください。

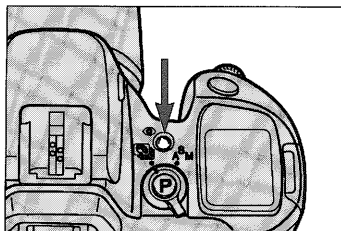
表2: フラッシュ(3500Xi)と被写体との距離(単位メートル)

絞り値 ＼ フイルム感度	ISO 100	ISO 400
F2.8	1.0-5.0	2.0-5.0
F4	0.7-4.5	1.4-5.0
F5.6	0.5-3.2	1.0-5.0

2

内蔵フラッシュを上げます。

3

フラッシュと内蔵フラッシュの充電完了を確認します。

- フラッシュは、前面のAF補助光が点滅し①、背面の⚡マークが点灯または点滅すると②充電完了です。
- 内蔵フラッシュは、ファインダー内の⚡が点灯すると充電完了です。

4

カメラの赤目軽減ボタン👁を押して、カメラから離したフラッシュが発光することを確認します(テスト発光)。

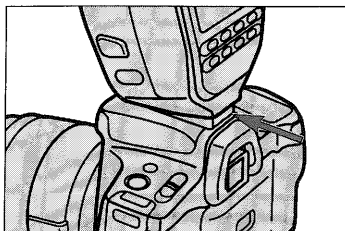
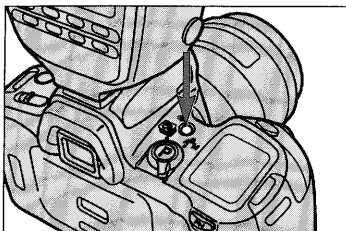
5

もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- シャッター速度は自動的に1/45秒以下に設定されます。

- **5**のとき、カメラの強制発光ボタンを押しながら撮影すると、カメラの内蔵フラッシュも発光し、フラッシュと内蔵フラッシュの光量比を2:1にする光量比制御撮影ができます。

ワイヤレスフラッシュの解除

1 フラッシュをONにし、カメラに取り付けます。

2 赤目軽減ボタン◉を押します。

● ボディ表示部の**WL**が消えます。

●**2**の代わりにプログラムセットボタンを押しても、ワイヤレスフラッシュは解除できます。この場合、カメラは全自動の状態になります。(65ページ参照)。
また、メインスイッチをLOCKにすると、次にONしたときはワイヤレスフラッシュは解除されています。

● このカメラでは、プログラムフラッシュ5400HSまたは5400xiをカメラに取り付けて行なうワイヤレスフラッシュ撮影(5400HSまたは5400xiをコントローラーとする撮影方法)はできません。

知っておくと便利です

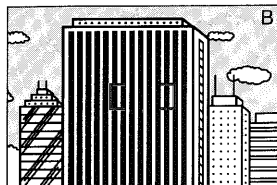
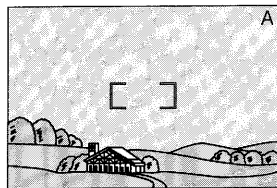
オートフォーカス(自動的にピントが合います)

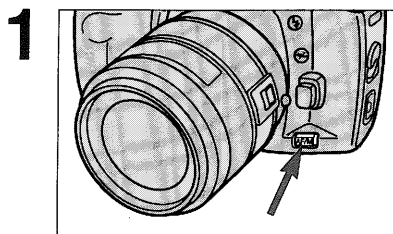
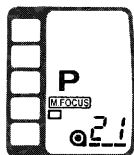
このカメラでは、シャッターボタンを半押し(途中で止まるところまで軽く押すこと)すると、自動的にピントが合います。

<フォーカス表示の見方>

((●))点灯：ピントが合っています。
●　点灯：ピントが合って固定されています。
(　)点灯：ピント合わせの途中です(シャッターは切れません)。
●　点滅：ピントが合いません(シャッターは切れません)。

ピント合わせは被写体のコントラスト(明暗差)を利用して行なわれます。したがって、以下のような被写体では、ピントが合いにくいことがあります。このような場合は、写したいものと同じ距離にあるピントの合いやすいものでフォーカスロック撮影(P.23)するか、次ページの手動によるピント合わせを行なってください。

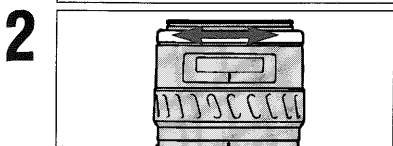
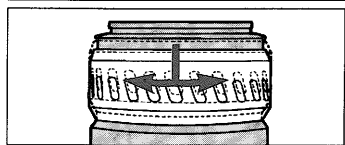
- 太陽のように明るすぎるものや、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの
- 青空や壁などコントラスト(明暗差)のないもの、またははっきりしないもの(A)
- ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの(B)
- おりの中の動物など、[ ]の中に距離の異なるものが混じっているとき

手動によるピント合わせ(マニュアルフォーカス)

1

フォーカスモードボタンを押します。

● ボディ表示部に M.FOCUS の文字が表示されます。

2

＜AFレンズ、AFズームレンズの場合＞

レンズ先端のフォーカスリングを回します。

＜AFズームXiレンズ、AFパワーズームレンズの場合＞

ズームリングを手前に引いたまま回します。

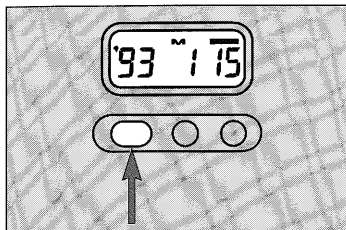
● 被写体がもっともはっきり見えるところでリングを離すか、すばやく元に戻します。

● オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、ファインダー内のフォーカス表示がピントの状態をお知らせします。
● もう一度フォーカスモードボタンを押すと、オートフォーカスに戻ります。

日付と時間の変更・写し込み用電池の交換

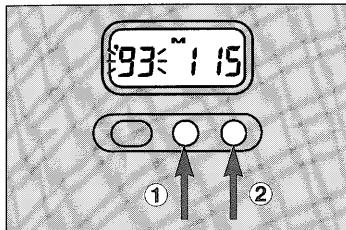
日付と時間の変更

海外旅行のときなど、記録する日付や時間を変更することができます。

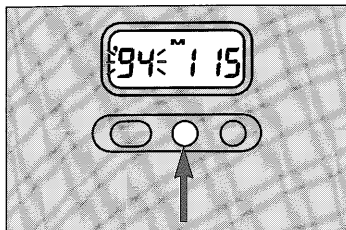
1

モードボタンを押して、変更したい表示を選びます。

"'94　1 15"年・月・日を変更するとき

"15 14:20"時・分を変更するとき

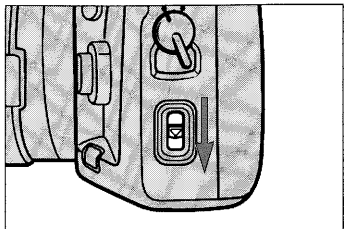
2

セレクトボタンを押して①変更したい数字を点滅させ、アジャストボタンを押して②数字を変更します。

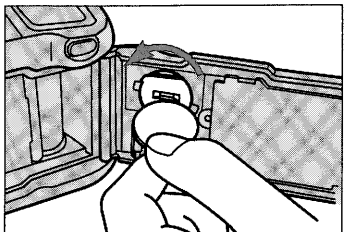
- 修正中は、セレクトボタンを押すたびに年→月→日または時→分→:が点滅します。
- :が点滅しているときにアジャストボタンを押すと、0秒スタートします。

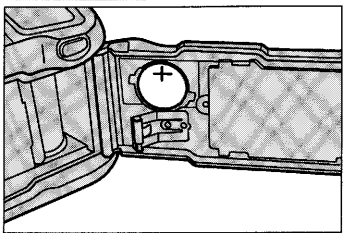
3

2の操作を繰り返して、変更が終了したら、点滅している数字がなくなり「ー」が点灯するまでセレクトボタンを押します。

写し込み用電池の交換

写し込んだ文字が薄くなってきたら、電池を交換してください。CR2025を1個使用します。

1

裏ぶたを開けます。

2

裏ぶたの内側にある電池室のふたの溝にコインを差し込み、⪡の方向へ回してふたを外します。

3

古い電池を取り出し、新しい電池の＋側を上にして電池室に入れます。

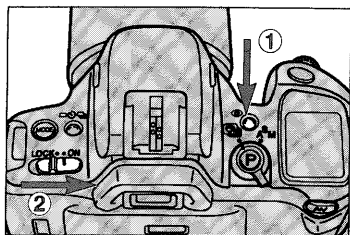
4 元通りにコインでふたを閉めます。

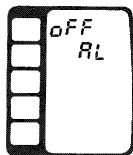
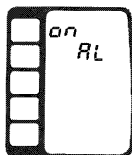
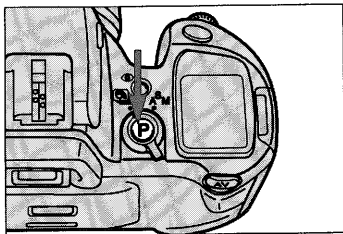
● 写し込み用電池を交換したあとは、日付・時間を修正してください。

ピント合わせのためにフラッシュが光ります(AF補助光)

暗いところでフラッシュ撮影をしていると、シャッターボタンを半押ししたときに、フラッシュが光ることがあります。これは、オートフォーカスでピントを合わせやすくするために発光するAF補助光です。この補助光が届く距離範囲は、1〜5mです(当社試験条件)。

- プログラムフラッシュを付けているときは、プログラムフラッシュの補助光が発光します。
- AF補助光は、AFマクロズーム3×-1×および焦点距離300mm以上の単焦点レンズ使用時には光りません。

<内蔵フラッシュによるAF補助光を禁止したいときは>

赤目軽減ボタンを押したまま①、メインスイッチをLOCKからONにします②。

- 同じ操作をするともとに戻ります。

AF補助光なし　AF補助光あり

プログラムセットボタン

このボタンを押すと、カメラの各機能は次の状態になります。

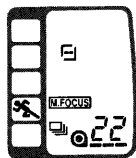
撮影モード	P(プログラム)モード (⊡/ASMレバーの位置にかかわらず)
ピント合わせ	オートフォーカス
セルフタイマー	解除
連続撮影	解除
露出補正	±0
ワイヤレスフラッシュ	解除

●パノラマ撮影、赤目軽減機能(プリ発光)、AF補助光の有無は変わりません。

2つ以上の機能の組み合わせ

次の機能は、カメラのどんな機能とも自由に組み合わせることができます。

パノラマ撮影、セルフタイマー、連続撮影、露出補正、赤目軽減機能(プリ発光)、ワイヤレスフラッシュ撮影、手動(マニュアル)フォーカス

例) ⊡/ASMレバーを⊡にしてスポーツ撮影を選び、同時に連続撮影、−0.5段の露出補正をして手動フォーカスで撮影する。

●セルフタイマーと連続撮影を組み合わせることはできません。
●赤目軽減機能とワイヤレスフラッシュ撮影を組み合わせることはできません(ワイヤレスフラッシュ撮影時に眼が赤く写ることはほとんどないため)。

表示が点滅したとき

	表示部	原　因	処　置
P／A／S／M	(⊟が点滅)	被写体が明るすぎる、または暗すぎてカメラの測光範囲を越えています。	被写体が明るすぎるときは、NDフィルターを使うか、被写体が暗くなるようにします。被写体が暗すぎるときは、フラッシュ撮影を行うか、被写体が明るくなるようにします。
P	(シャッター速度と絞り値が点滅)	被写体が明るすぎる、または暗すぎて使用レンズの絞り値、シャッター速度の範囲を越えています。	
A	(2000または30sが点滅)	被写体が明るすぎる、または暗すぎてシャッター速度の範囲を越えています。	シャッター速度が点滅しないように絞り値を変更します。
S	(最大または最小絞り値が点滅)	被写体が明るすぎる、または暗すぎて使用レンズの絞り値の範囲を越えています。	絞り値が点滅しないようにシャッター速度を変更します。

	表示部	原　因	処　置
P/A	(シャッター速度が点滅)	望遠レンズ使用などのため手ぶれが起こりやすくなっています。	三脚を使用するか、手ぶれしないよう注意して撮影します。
P	(シャッター速度と⚡が点滅)	暗いところでフラッシュなしで撮影しようとしているため、手ぶれが起こりやすくなっています。	フラッシュまたは三脚を使用するか、手ぶれしないよう注意して撮影します。
P	(⚡が点滅)	逆光の被写体を撮影しようとしています。	フラッシュの使用をおすすめします。

こんなときはこうしてください

故障かな？と思ったとき、あるいは思うような写真が撮れないときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときやわからないときは、お近くの当社サービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。

症　状	点検項目	処　置	ページ
ボディ表示部になにもでない	電池が消耗していませんか。	新しい電池と交換してください。	10
ピントが合わない	コントラストのないものや、オートフォーカスの苦手なものを撮影していませんか。	手動によるピント合わせまたはフォーカスロックを行なってください。	23 60 61
	フラッシュを下げたままにしていませんか。	フラッシュ撮影が可能なところでは、フラッシュを上げてください。AF補助光が発光してピントを合わせます。	64
	M.FOCUS が表示されていませんか。	フォーカスモードスイッチを押してオートフォーカスにしてください。	61
	被写体に近づきすぎていませんか。	レンズの最近接撮影距離に注意して撮影してください。(最近接撮影距離については、レンズの使用説明書をご覧ください。)	—
シャッターが切れない	ピントは合っていましたか。(ピントが合わないとシャッターが切れません。)	手動によるピント合わせまたはフォーカスロックを行なってください。	23 60 61
	※　天体望遠鏡などにカメラを取り付けた場合、フイルムが入っているとシャッターが切れません。使用方法についてはお近くのサービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。		—

症　状	点検項目	処　置	ページ
写真がぶれてしまう	体を固定して脇をしめ、左手でレンズの下側を支え、ゆっくりシャッターボタンを押してください。		16
	暗いところでフラッシュを発光させずに撮影しませんでしたか。（ファインダー内のシャッター速度表示と が点滅します。）	フラッシュを使って撮影してください。	67
	※ 高感度フイルムを使うと、手ぶれが少なくなります。また、望遠レンズを使うと手ぶれしやすくなります。		—
プリントの上下が黒くなる	パノラマ撮影をしたときに、お店に出すときにパノラマシールを貼りましたか。	シールを貼って、口頭でパノラマ撮影したことを伝えてください。	25
フラッシュ撮影でプリントしたものが暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しましたか。	フラッシュ光の届く範囲で撮影してください。（別売りのプログラムフラッシュについてはフラッシュの使用説明書をご覧ください。）	49
	レンズフードを付けたまま撮影しませんでしたか。	レンズフードを外して撮影してください。	—
	内蔵フラッシュに適さないレンズで撮影しませんでしたか。	プログラムフラッシュの使用をおすすめします。	53
ボディ表示部にHELPが表示される	電池を一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合、また何度も繰り返してHELPが出る場合は、お近くの当社サービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。		—

α-303siと組み合わせて使えるもの

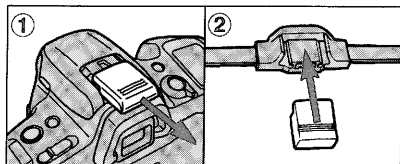
レンズ

すべてのαレンズが使用できます。それ以外のレンズ(MDレンズやMCレンズなど)はご使用になれません。

●内蔵フラッシュを使ったときのレンズの制限については、53ページをご覧ください。

フラッシュ

内蔵フラッシュでは光が届かないような撮影距離でも、より大光量のプログラムフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。

●プログラムフラッシュをご使用になる場合は、アクセサリーシューキャップを外してください①。また、キャップはストラップに付いているアイピースキャップに収納することができます②。

●プログラムフラッシュ5400HS、Xiシリーズフラッシュ(5400Xi、3500Xi、2000Xi)およびiシリーズフラッシュ(5200i、3200i、2000i)は、そのままご使用になれます。この場合、

P モード：フラッシュをONにすると、必要に応じて自動発光します。フラッシュ強制発光ボタンを押しながら撮影すると、フラッシュは必ず発光します。

A•S•Mモード：フラッシュをONにすると、必ず発光します。

●プログラムフラッシュ5400HSのハイスピードシンクロ撮影はできません。

●AFシリーズのフラッシュ(4000AF、2800AF、1800AF、マクロ1200AF)をご使用になる場合は、別売りのフラッシュシューアダプターFS-1100を使ってカメラに取り付けてください。このとき、Pモードでもフラッシュが ONのときは必ず発光します。また、AF補助光は発光しません。

その他

以下のものは、α-303siと組み合わせての使用はできません。

・インテリジェントカード　・アングルファインダー　・マグニファイヤー
・コントロールグリップCG-1000　・データレシーバーDR-1000
・ワイヤレスコントローラーIR-1N

取り扱い上の注意

電池についての注意

- 電池を火の中に投入したり、充電、ショート、分解、加熱したりすると、発熱、発火、破裂の原因となり非常に危険ですので、絶対にしないでください。

- 撮影可能本数(74ページ参照)はカメラの使い方、使用温度によって変わります。表記の値より少なくなることもありますので、海外旅行や寒いところでカメラをご使用になる場合は、予備の電池を用意されることをおすすめします。
- リチウム電池は低温下の特性にも優れていますが、0℃以下ではやや電池特性が低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラや予備の電池を保温しながら撮影してください。なお、低温のため性能が低下した電池でも常温に戻せば回復します。
- 新品電池を初めてお使いのとき、それまでその電池が保管されていた状況によっては、電池の容量チェックの際に が点灯することがあります。その場合、いったんメインスイッチをLOCKにし再度ONにする操作を数回繰り返すと容量が回復します。

- 写し込み用のコイン型電池をまちがってお子様が飲み込んだりしないよう、お子様の手の届かない場所に置くなど取り扱いにご注意ください。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

使用温度について

このカメラの使用温度範囲は－20～50℃です。

- 日付写し込み機能は、0～50℃の範囲で使用することができます。0℃以下では写し込めないことがあります。
- 直射日光下の車の中など、極度の高温下にカメラを放置しないでください。故障の原因になります。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、60℃ぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。

●カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後、室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。

その他の注意

●内蔵フラッシュを連続して使用した場合、発光部が熱くなることがあります。また発光の瞬間は、発光部がたいへん熱くなります。発光部に皮膚はもちろん、物を密着させて発光させないでください。

カメラは精密機械です。取り扱いにはご注意ください。

●シャッター幕、ミラー、レンズの信号接点などに傷がつかないように気を付けてください。

このカメラは防水構造ではありません。

●万一水にぬれたときは乾いた布で水をふき取り、すみやかに当社サービスセンターまたはサービスステーションにお持ちください。

このカメラの内部には高電圧回路がありますので、絶対に分解しないでください。

●故障したときは、必ず当社サービスセンターまたはサービスステーションにお持ちください。

●空港の手荷物検査を受けるとき、フイルムがカメラの中に入っているとX線でフイルムが感光してしまうことがあります。検査官にフイルムの入ったカメラであることを伝えて、X線の照射を避けてください。

●このカメラの機能を活用していただくためには、当社独自のノウハウによりボディ特性に適合するように設計・製造管理されているレンズおよび付属品の使用をおすすめします。当社製品以外の付属品を単に装着できるというだけでお使いになる場合、いかなる事象が生じるかについては予想いたしかねます。

●海外旅行や結婚式など大切な撮影の時は、前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また、予備の電池を携帯することをおすすめします。

●万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

カメラボディを清掃するとき

柔らかいきれいな布で軽くふくか、市販のブロアブラシでホコリを吹き飛ばしてください。とくに海辺で使った後は、真水を少量浸した布で塩分をふき取り、乾いた布でよくふいて乾かしてください。

レンズやフイルム室内を清掃するとき

ブロアでほこりを除き、柔らかいきれいな布で軽く拭き取ってください。汚れがひどい場合は、当社サービスセンター、サービスステーションにお持ちください。

マウント面を清掃するとき

柔らかいきれいな布で軽くふいてください。シンナー、ベンジンなどの有機溶剤は絶対に使わないでください。

●シンナー、ベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使わないでください。

●汚れがひどいときは、当社サービスステーションにお持ちください。

保管のしかた

カメラケースを外し、風通しの良いところに置いてください。湿気の多い時期には、ポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。長期間使用しない場合は、フイルムと電池を抜いてください。

●防虫剤の入ったタンスなどには入れないでください。

●長期間使用しないと、カビがはえたり、故障の原因になったりすることがあります。ときどきシャッターを切るようにし、また使用前には整備点検されることをお勧めします。

アフターサービスについて

●本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。

●アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、ご覧ください。

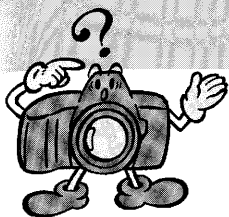
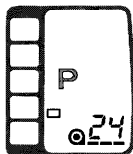
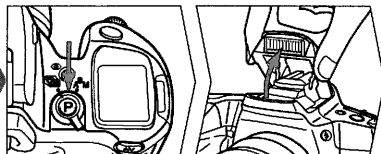
主な性能

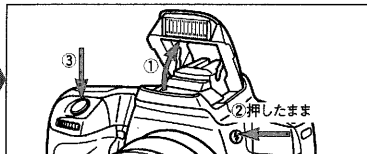
●AF検出範囲　EV－1～18(ISO100)
●測光範囲　EV1～20(ISO100)
●シャッター速度　1/2000～30秒、バルブ(新品電池使用で約6時間)
フラッシュ同調最高速度：1/90秒(ワイヤレスフラッシュ時は1/45秒)
●内蔵フラッシュ　ガイドナンバー：12(28mmをカバー)
充電時間：約2秒
●ファインダー視野率　90%
●ファインダー倍率　0.75倍(50mm標準レンズ・∞位置)
●ファインダー視度　－1ディオプトリー
●パノラマ撮影　途中切り替え可能
●フイルム感度設定　ISO 25-5000 自動設定 1/3ステップ(DXコードのないフイルムはISO100)
●撮影可能本数

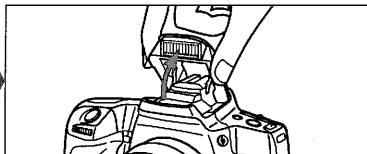
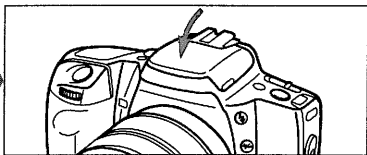
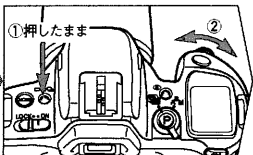
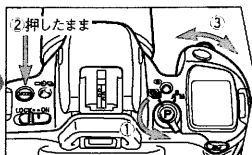
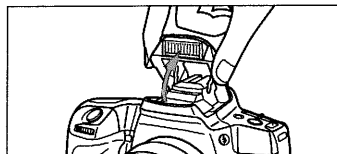
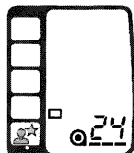
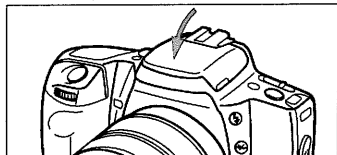
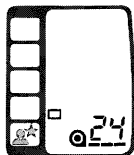
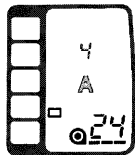
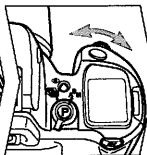
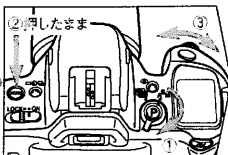
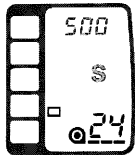
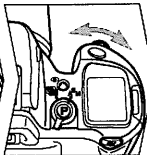
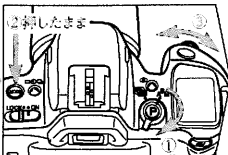
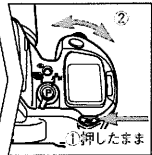
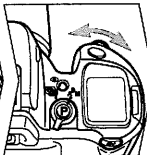
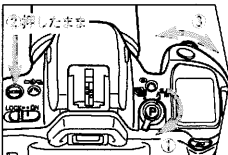
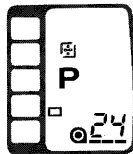
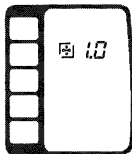
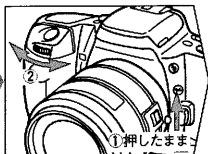
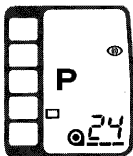
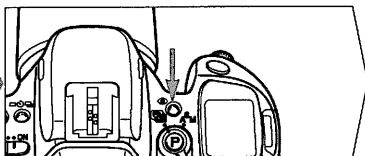
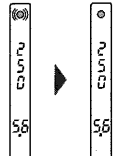
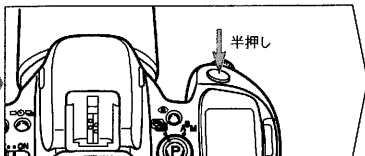
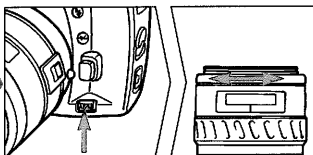
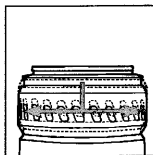
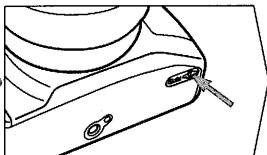
温度	20°C	−20°C
フラッシュ　使用しない	約50本	約20本
フラッシュ　50%使用	約20本	約10本
フラッシュ　100%使用	約13本	約5本

試験条件　24枚撮りフイルム、新品電池使用
使用レンズ：AFズーム28-80mm F4-5.6
レンズを1コマ毎に無限遠から最近接まで3回往復させ、
シャッターボタン半押しで10秒保持後レリーズ
※36枚撮りフイルムの場合は、上記の2／3程度の本数になります。
※電池は、実際に撮影しなくてもカメラを操作することで消耗します。
電池を長持ちさせるために、撮影しないときは、メインスイッチをLOCKにしてください。
●大きさ・重さ　148.5(幅)×92.5(高さ)×67.5(奥行き)mm
395g(電池別・クォーツデート用電池含む)

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は都合により予告なく変更することがあります。

○○○したいときは…

おまかせPモードにしたい

フラッシュを必ず発光させたい

Pモード

フラッシュを発光させたい

A・S・Mモード

フラッシュ発光を止めたい

セルフタイマー／連続撮影にしたい

□ 1コマ撮影
セルフタイマー
連続撮影

撮影シーンセレクターで撮りたい
②押したまま
③
①
ポートレート
記念撮影・風景
クローズアップ
スポーツシーン
夜景ポートレート・夜景
人物と夜景を撮りたい
24
夜景だけを撮りたい
24
背景の描写を変えたい（Aモード）
②押したまま
③
①
4
A
24
動くものの描写を変えたい（Sモード）
②押したまま
③
①
500
S
24
自由に露出を決めたい（Mモード）
②押したまま
③
①
②
①押したまま

画面を明るく・
暗くしたい
(露出補正)
①押したまま
②
1.0
P
24
眼が赤く写るのを
軽減したい
(プリ発光)
P
24
[ ]以外に
ピントを合わせたい
(フォーカスロック)
半押し
250
5.6
250
5.6
手動(マニュアル)
フォーカスに
したい
または
フイルムを途中で
巻き戻したい
16
0
ピント合わせの
フラッシュ(AF補助光)
をON/OFFにしたい
①押したまま
②
on
AL
oFF
AL

ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

使い方に関する不明な点は、下記住所のフォトアドバイザーがお答えいたします。

サービスセンター

新　宿	〒160-0022	東京都新宿区新宿3-17-5（カワセビル3階）	TEL（03）3356-6281(代)
大　阪	〒530-0001	大阪市北区梅田1-11（大阪駅前第4ビル7階）	TEL（06）341-6501(代)

サービスステーション

札　幌	〒060-0807	札幌市北区北7条西1-1-5（丸増ビルNo.18）	TEL（011）737-1212(代)
仙　台	〒980-0802	仙台市青葉区二日町14-15（アミ・グランデ二日町ビル3階）	TEL（022）261-3431(代)
横　浜	〒231-0015	横浜市中区尾上町4-47（大和横浜ビル3階）	TEL（045）663-1445(代)
静　岡	〒420-0857	静岡市御幸町5-9（静岡FSビル7階）	TEL（054）251-7301(代)
名古屋	〒460-0002	名古屋市中区丸の内1-4-12（アレックスビル4階）	TEL（052）239-1251(代)
広　島	〒730-0041	広島市中区小町3-25（住金物産広島ビル1階）	TEL（082）247-3978(代)
高　松	〒760-0078	高松市今里町1-17-20	TEL（087）835-5568(代)
福　岡	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東3-4-10（コマバビル1階）	TEL（092）441-6121(代)

営業時間 ・・・・・・・・・・・・・新宿・大阪　10:00～18:00（日曜・祝日定休）
その他　9:00～17:30（土曜・日曜・祝日定休）

9223-2092-61 MM-F807